

諏訪湖清掃に参加して

自分たちができることを

下諏訪南小学校四年

吉木 遥香

私は、毎年学校の諏訪湖清掃に参加しています。諏訪湖の周りに捨てられたゴミを、もえるゴミともえないゴミに分けて拾います。

諏訪湖清掃をして、私がたくさん拾ったゴミは、たばこピンの破片でした。諏訪湖の周りにゴミを捨てると、風などでゴミが湖に入ってしまうので、ポイ捨てをしないで、ごみ箱に捨てたほうが良いと思います。

私は以前、家で諏訪湖の生き物を飼っていました。その時、水質が合わなかったのか、何日かすると数匹が死んでしまいました。またある時メダカを飼っていましたが、住む環境がいき

なり変わって驚いたのか、すぐに弱って死んでしまいました。人間が環境を変えることが、生き物にとってどれだけつらいことか、その時はつきり分かりました。

今の諏訪湖も、人間が汚してしまったことで、住めなくなつた生き物があると聞いたことがあります。だから昔の諏訪湖に戻って来てくれるように、毎日の生活の中で、自分たちのできることをしていくことが大切だと私は思います。(現在五年)



きれいな諏訪湖にしたい

日頃の感謝を

伝えるために

下諏訪中学校三年

林 あかね

私が下中ボート部に入部してもう三年目です。春・夏・秋と毎日のように艇庫に通い、諏訪湖にはたくさん、たくさんお世話になりました。

さて、ボート部では毎年、夏に高校生や大人と一緒に諏訪湖の「ヒシ取り」をします。「ヒシ」とは水草の一種で、諏訪湖に無数に生息しています。このヒシを根っこから取り除くのはなかなか大変な作業です。

男子が実際に諏訪湖へ入り、ヒシを根っこから引き抜き、それを女子が岸にあげる……。これを何度も繰り返します。暑くて本当に大変な作業ですが、一、二年生で協力して頑張つてやっています。そして作業終了。たくさんさんのヒシが取り除かれ



諏訪湖に入って根っこから

砥川清掃に参加して

進んで自分から

下諏訪北小学校四年

堀内 貫汰

「あつた。」
「やった。」
「きたない。」
「北の子」(総合的な学習の名称)の授業で、砥川や学校周辺のゴミ拾いをしました。目的は、観光に来た人たちに、いい気持ちで観光をしてもらいたいということです。



こんな所にもゴミが

生けん命拾いました。ゴミ拾いをしてみて思ったことは、子どもも大人も、ゴミを捨てている人がいっぱいいるということです。

これからは、みんながちゃんとゴミはゴミ箱に捨てて、砥川などを汚さないように気をつけていけたらいいと思いました。そして、これからは、授業でなくても進んで自分からゴミを拾うようにして、きれいな砥川、きれいな下諏訪町にしていきたいと思っています。(現在五年)

諏訪湖につながっている砥川

下諏訪社中学校二年

中村 朋実

諏訪湖につながっている川の一つである砥川。砥川は私たちにとってとても身近な川です。

カヤの中からゴミを探す



夏にはたくさん遊びに行き、登下校でも通ります。観光客がたくさん訪れる方治の石仏にも近く、常にきれいな川だと思います。

しかし、きれいな川とはどのようなことをさすのでしょうか。上から見ると水がきれいだったら、きれいな川といえるのでしょうか。私は少しがうと思います。ゴミが一つも落ちていない、人の目につかないところもちゃんときれいな水が流れている、そんな川がきれいな川と言えるのかなと思います。

そんな川をつくるのは地域だと思えます。年に一、二回、社中生と共に地域の方々が砥川清掃を行います。私も参加したことがあります。お菓子の袋やペットボトルなどゴミは少なくありませんでした。大きなゴミでなくても、ガムの紙など気

が付かずにポイ捨てしてしまうケースのゴミもあります。

小さなゴミが砥川を汚してしまう原因だったとしたら、それが諏訪湖を汚してしまうと思います。もちろん生活排水から汚くなっていることも考えられますが、「ポイ捨てをしない」というきれいなことから砥川、そして諏訪湖を守っていくべきだと思います。

諏訪湖をもっときれいに。砥川をもっときれいに。これは誰もが思うことでしょう。そんな思いだけでなく、小さな私たちの行動から少しずつきれいな諏訪湖を取り戻していきたいです。(現在 卒業)



きれいな砥川にしたい